

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072600408
法人名	社会福祉法人 みやこ老人ホーム
事業所名	みやこの苑 グループホーム
所在地	行橋市大字二塚584番地 (電話) 0930-26-6477

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	21年 3月 10日
評価確定日	21年 4月 10日

【情報提供票より】 (平成21年2月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	8 人
職員数	8 人
常勤	8人
非常勤	人
常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	580 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年2月17日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大原病院、門司歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかで静かな丘の上に事業所は位置し、当法人が運営する特別養護老人ホームや養護老人ホーム、デイサービスが併設されている。周辺は事業所が幾つも点在し、小さな福祉村をイメージさせる環境である。またすぐ隣に市のグラウンドがあり地域の人々や利用者の散歩コースとなっている。運営推進会議に全利用者の家族が参加することによって、利用者・家族の意見の反映に力を入れている。畑で採れた新鮮な野菜を食卓に出したり、家族が持参した野菜と一緒に料理し食べる等、家庭的な雰囲気作りがなされている。併設施設の職員とともに研修委員会をつくり、毎月の介護目標を立ててケアに積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において、改善課題に該当するものはなかったが、地域との関わりについて、事業所自ら課題を持ち取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価及び外部評価の意義や目的を職員会議の中で伝え、全職員で十分検討して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。全利用者の家族に会議への出席を依頼するなどして、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	苦情箱を設置し、苦情窓口については利用開始時に家族に説明している。全利用者の家族が出席する運営推進会議を、意見提示の機会として活用している。時には、クラシック音楽を流してはどうかという意見があり時々流す等、意見を活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人が運営する他の事業所との合同夏祭りや地域行事等に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、複数の専門学校の実習生を受け入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員で確認し、地域生活の継続支援及び事業所と地域の関係性を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は月1回の職員会議の中で、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当法人が運営する他の事業所と合同で行う夏祭りや地域ふれあい会等で、地域の人々にも参加をよびかけている。また複数の専門学校の実習生を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や主任は自己評価及び外部評価の意義や目的を職員会議の中で伝え、全職員で十分検討して取り組んでいる。また前回評価での改善課題はなかったが現在の介護にとどまらず向上したいと努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。全利用者の家族に会議への出席を依頼する等して、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政担当者と報告や運営上の相談等で、連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族には契約時に制度について説明している。職員には内部研修会を開催し理解を得て、制度を利用している利用者に対し支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等の報告を行っている。2ヶ月に1回、法人施設と合同で事業所便りを発行し、また事業所独自でも発行している。担当者のコメント欄をつくり生活ぶりを伝えている。緊急時には家族に電話で状況報告を行っている。金銭管理については、概ね2ヶ月に1回、家族に金銭出納帳を明示している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、苦情窓口については利用開始時に家族に説明している。全利用者の家族が出席する運営推進会議を、意見提示の機会として活用している。時には、クラシック音楽を流してはどうかという意見があり時々流す等、意見を活かしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動を最小限に抑える努力をしている。また引継ぎ期間を十分に設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集や採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。配置・昇進・定年・退職等においては、差別なく安心して働ける環境の確保に努めている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育の重要性を認識している。法人施設全体で“基本的人権”の研修会をしたり、市主催の同和研修にも参加している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員育成の重要性を認識し、法人施設内で研修委員を選び1年間の学習計画を立てて学習したり、また外部研修に取り組んだりして、研修を受ける機会を確保している。また職員会議で全職員へ伝達し、研修内容の共有を図っている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京築グループホーム連絡協議会に加入している。2ヶ月に1回、研修会を行い管理者及び職員は交替で参加する等、サービスの向上に努めている。また見学を受け入れる等して、他の事業所と交流を図っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には必要に応じて体験利用や自宅訪問・病院訪問を行っている。また利用申し込み者には、共用型通所介護の利用を勧め、徐々に馴染みながら安心して利用ができるように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯や調理・干し柿作りや七輪の火のおこし方・将棋等、職員が知らない生活の技や知恵を利用者から教えて貰う場面がある。また夜勤時に、職員が利用者から労いの言葉をかけて貰うなど、職員と利用者が共に過ごし、学び、支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者の表情等から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。またアセスメントを活用し、本人が何を望み、何をしたいかを考えている。毎月のカンファレンス会議でも利用者の言動にどのような思いがあるのか意見を出し合い、全職員で把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症のアセスメントシートを用い、職員の気づき及び家族の意見を聴取して作成している。また、介護計画を家族へ説明し、同意の署名押印を貰っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、利用者の状態の変化に応じて、ケアカンファレンスで検討を行い、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、家族・医療機関と連携を図り、早期退院へ向けて取り組んでいる。通院については、基本は家族へ対応をお願いしているが、状況に応じて柔軟に事業所が支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望に沿って受診する医療機関を選択している。また、受診時には事業所で日々記録したバイタル表の写しを医療機関へ持参するなど、情報の伝達方法に配慮している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所独自で終末期のあり方について取り決めており、「終末期看取りについて事前確認書」を作成している。家族には早い段階で方針の確認を行い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は研修等でプライバシーの確保について意識向上を図っており、日々のケアにおいても実践している。また、面会簿を利用者別にページを分けており、個別で署名するよう個人情報の取り扱いにも配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課の流れはある。一人ひとりの体調や希望に応じ、日課のペースを大切に、散歩やドライブに出かける等、利用者本意の生活が送れるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、一緒に食事の準備や片付けを行い、同じテーブルで同じ物を楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外は毎日自由に入浴ができるように、柔軟な対応を行っている。入浴拒否の利用者に対しては気分転換を図ったり、職員と一緒に入る等して、臨機応変に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる事や得意な事を把握し、七輪の火おこし・漬物づくり・演芸会への出演など、楽しみごとも含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調や希望に応じて、概ね毎日の散歩や食材の買い物、週2回のドライブ、2ヶ月に1回の外食等、事業所に閉じこもることのないように戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室の施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守り等を行っている。また、万が一に備え、併設施設の職員の協力が得られるよう連携を図っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備を行っている。年3回避難訓練を行い、うち1回は消防署立会いのもと消火訓練を実施している。地域の消防団長や自治会長へ参加の協力を呼びかけて、参加の協力を得ている。非常用食料や飲料水等を準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの嗜好については、認知症アセスメントシートの聴き取りの際に聴き取るようにしている。全員の食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立については、栄養バランスに配慮し、栄養士が作成している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆとりのある共有空間にこたつが配置され、それぞれのコーナーに利用者が寛げる空間がある。また、家庭的な雰囲気や崩すことなく、利用者作成の絵や作品等がさりげなく飾られている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は馴染みの使い慣れた家具等を居室に持ち込んでいる。また、家族の写真を飾るなど、本人が居心地良く過ごせる工夫が施されている。</p>		

※ は、重点項目。